

様式1

平成25年度 学校評価表

a ミッション		志を持ち未来を拓く子どもの育成		a ビジョン ○基礎・基本を大切に、確かな学力を育む学校 ○学び力と遊ぶ力、これらの基本となる力を育む学校 ○尾道の魅力と郷土愛を高める学校 ○地域と保護者が共に育て支える学校												尾道市立土堂小学校	
評価計画				自己評価								学校関係者評価				改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		1月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値	g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
確かな学力の向上	基礎・基本の定着と学力の向上	モジュール授業の工夫 個別学習の工夫 家庭学習の充実 ティームティーチングによる指導の充実	全国学力・学習状況調査と基礎・基本定着状況調査の通過率(9月)	国および県平均通過率より+8ポイント以上	+15.4				193	A	<ul style="list-style-type: none"> 「全国学力・学習状況調査」の通過率()は国との比較 国語A 81.6(+18.9) 国語B 69.4(+20.0) 算数A 89.1(+11.9) 算数B 80.8(+22.4) 「基礎・基本」定着状況調査の通過率()は県との比較 国語 82.6(+12.5) 算数 85.3(+15.5) 理科 67.6(+6.3) 調査結果を受け、「学力向上対策プロジェクト」を立ち上げ、国語・算数・理科プリント集を作成し、児童全員に基礎・基本が身に付くように指導するとともに、活用問題等も指導した。(放課後・授業・家庭学習) 	7			○学力指導は素晴らしいと思います。もう少し、自己表現力を養う努力が必要です。 ○学力向上にT Tにしていたり、苦手ポイントを工夫して宿題として提出してもらっていることは、ありがたい。 ○現状に対して何の不安も心配もない。 ○学力に関しては、何も心配はない。	○授業改善を組織的に行う。 ・他者視点の取得、自己モニターの機能を意識した取組を進めると共に、児童のふり返りを積極的にフィードバックし、自分の考えのよさに自信を持たせる。 ・各教科で授業者が目指す子どもの姿を明確にして評価問題を作成する。その上で、どのような目的や条件で問題を提示し、どのような見通しを持たせて問題に取り組ませたらよいか考えた上で、学習を仕組むようにする。 ・ノート指導を組織的に行う。 ○モジュール学習において意欲を高める指導を引き続き行う。今回の不合格者は、自分の学年より上の級を受けて不合格となった。自分が目指す級の内容を自主的に習得できるように支援する。	
			標準学力調査の通過率(2月)	目標値+15.0				92	92	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合学力テスト(1月実施)の正答率()は、目標値との差 国語 1年82.3(+22.5) 2年92.0(+27.0) 3年63.4(+17.6) 4年75.6(+16.0) 5年75.4(+14.5) 6年78.6(+22.5) 算数 1年91.0(+22.7) 2年85.0(+21.5) 3年80.5(+20.1) 4年84.8(+28.1) 5年80.2(+19.7) 6年76.8(+23.9) 5年生国語を除いて目標値+15.0を達成した。 国語 課題:「登場人物の心情を読み取ること」「条件に合わせて書く、読み取る」 算数 課題:活用問題「数学的な考え方・見方」「図形」 課題に取り組み期間を設定して、再テストを行い、学力の定着を図る。 課題をもとに授業改善を図る。 	6	1				
			漢字検定試験・算数検定試験の合格率(1・2月)	95%			99	100	A	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定試験 受験230人 合格229人 99.6% 算数検定試験 受験98人 合格98人 100% 	6	1		○漢字検定の1人だけの不合格者のフォローをしてあげてください。 ○しっかりした音読を基本にお腹から声を出す事の大切さを教えてほしい。			
	◎コミュニケーション能力を活用した児童の育成	土堂小シンキングマップを活用した授業改善	事実を基に理由付けができる児童の割合【ノートの記述から】	80%	77	79	96	B	<ul style="list-style-type: none"> 理由付けをして考えを書いたり、交流する学習を意図的に仕組むことで、問題の意図を考えながら式や図を使って自分の考えを表現する児童が増えた。 考えをまとめる場面において、自分の学びに目を向けて、友達や考えのよさや学びの充実感を感じている児童が増えた。 留意や条件に合わせて、情報を読み取ったり自分の考えを表現したりすることに課題がある。そのために授業者が単元を通してどんな力をつけていきたいか明確にすると共に焦点化して授業を構築していく必要がある。 	7							
豊かな心の育成	基本的な生活習慣の確立と豊かな心を育む。	◎マナーの定着と奉仕の精神の涵養	気持ちのよい挨拶(目を見て、相手に届く声)の励行	習熟化できた児童の割合(児童アンケート5段階)	85%	77	80	94	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級指導、全校集会、学校行事等の日常の指導、児童会によるあいさつ運動などにより、気持ちのよいあいさつをすることできる児童が全校に広がっている。異学年間土のあいさつも広がっている。また、教室を出入りする際のあいさつも申し分できるようになっている。 今後も異学年の交流を大切にしながら、気持ちのよいあいさつができる児童を増やしていきたい。 	7			○ももとの目標も高めだが、よく頑張っている。 ○評価の指標がむずかしい項目があるので、引き続き評価内容の工夫をしてほしい。	○挨拶については、引き続き、学級指導、全校集会、学校行事の日常指導、児童会によるあいさつ運動などにより、気持ちのよいあいさつをすることできるよう全校で取り組んでいく。(目を見て相手に声を届けるあいさつの仕方の具体を示す)また、校外学習や地域の方との挨拶を指導していく。 ○清掃は引き続き「さ・し・す・せ・そ」清掃を行う。 ○読書については、評価の工夫を行う。		
			主体的な清掃活動の実施(清掃開始時刻・終了5分前行動の徹底)	習熟化できた児童の割合(児童アンケート5段階)	85%	74	77	91	B	<ul style="list-style-type: none"> 掃除の指導を行うことや全教職員も掃除に参加することで、ほとんどの児童が主体的に掃除に取り組むことができています。 ゴミの分別に課題があったが、学級指導や委員会の取組により、ゴミの分別を意識して行うことができるようになった。 掃除終了の時刻を意識している児童は多いが、開始時刻に遅れる児童がいるため、開始と終了の時刻を守ることを習慣化させ、さらに主体的に掃除に取り組む児童を育てていきたい。 	7			○挨拶は、高学年になる程、気持ちよい挨拶ができています。 ○校内での挨拶はできるが、まだまだ校外での挨拶は不足している。			
			道徳の時間の充実	心に響く道徳授業の創造	児童の心情変化(児童アンケート5段階)	85%	93	94	109	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動と道徳の時間を関連させたり、道徳資料の教材研究を行ったりしたことにより、9.4%の児童が「授業で学んだことをこれからは生かしたい」と肯定的にアンケートに回答している。 	7				○掃除と挨拶は、人として最も大切な事なので、習慣付けてほしい。 ○無言掃除が素晴らしい。	
			読書活動の充実	教科等の学習と関連付けた図書を用意し、読書の質を高める工夫を行う。	1年生6冊、2年生月12冊、中学年月500ページ、高学年月1000ページ以上の読書をした児童の割合	85%	70	71	84	B	<ul style="list-style-type: none"> 週1回以上の読書朝会の時間の確保、週末読書の呼びかけ、学級の図書係の活用などを通して読書を推進する取組を行ってきたが、目標値85%には、まだ到達していない。 今後も取組を継続するとともに、定期的なブックトラックの交換を呼びかけ、読書活動の充実を図っていききたい。 評価指標については、読書の質を見ることが難しいため、検討が必要である。 	5	2			○読書活動の工夫は、誤差の範囲であるので、Aである。	
豊かな体の育成	健康の増進と体力の向上を図る。	体育科授業の充実	児童の体力・運動能力の向上	新体力テストの昨年度の本年平均を上回った種目と下回った種目の差	15以上	12			80	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は、9月、10月、12月には2分なわとびを、11月には4分間走を体育の授業のはじめに実施し、体力を高める取組を継続して行った。また、なわとび朝会やマラソン朝会を行い、児童の意欲を喚起していったことで、主体的に運動に取り組む姿が見られるようになった。 	6	1		○基礎体力作りさらに取り組んでほしい。 ○体力テストの結果が良いと思われる子は、スポーツ遊び・楽しみと捉える事ができていると思う。苦手な子が楽しめるという点も素晴らしい。 ○遊びを通して普段から自然に体を動かしてほしい。自然に恵まれた尾道の子どもの力で、しっかり自然の中で遊んで欲しい。 ○校区外からが多いので、通学が電車やバスが多い。通学や塾通いに時間がとられ、遊ぶ時間がないのかも知れない。 ○体力テストだけで体力を評価するのは、少し無理がある。 体の使い方等細かい指導が必要である。 ○県平均との比較でよいかどうかを検討する必要はある。 ○評価基準を見直す事を検討する必要がある。	○課題のある4種目については、体育の授業のはじめに行う「土堂小トレーニング」に追加する。 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横とび ・20mシャトルラン ○新体力テストの評価については、昨年度との結果の比較を行う。	
			基本的な生活習慣の確立	「早寝早起き朝ごはん」の徹底	習熟化できた児童の割合(児童の自己評価)	85%	80	77	91	B	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはん」実態調査を1～3学期のはじめに2週間実施した。また、11月と1月の学級懇談会では、分析結果をもとに保護者啓発を行った。年間を通して基本的な生活習慣に対する意識を高める取組を継続的に実施することができた。習慣化できていない児童への個別指導を継続して行う。また、来年度も実態調査を計画的に実施する。 	7					
保護者・地域との連携	コミュニティスクールの実践を進化させる。	学校情報の積極的な発信	ホームページによる学校の取組の発信	年間のHPの更新回数	250回	120	320	144	A	8月29回 9月30回 10月29回 11月29回 12月28回 1月28回 2月28回 3月毎日更新を行った。	7			○ホームページは、とても楽しみです。 ○学校に訪問できなくても、ホームページやブログはよく拝見しています。	○今後も地域での学習・ゲストティーチャーの招聘・地域行事・育友会行事等への参加を行い・保護者図書ボランティアの方との連携をしっかりとる。		
		地域の教育力を生かした教育活動の推進	地域人材・素材の計画的な教育課程への位置づけ	年間計画の実施率	100%	100	100	100	A	9月～3月の実績 ① 地域での学習 11回 ② ゲストティーチャーの招へい 18回 ③ 地域行事・育友会行事等への参加 18回 ④ 保護者図書ボランティア 27回	7			○非常に地域性が出ていてよい。この部分が何よりも土堂小学校に期待する部分です。 ○良く活動している。			
		ミッションステートメントの実現	教職員間でのミッションステートメントの共通理解	保護者評価5段階3以上の割合(保護者アンケート)	90%	82	82	91	B	「楽しく学校に行っている」と肯定的(よくあてはまる・あてはまる)に答えた保護者は、81.9%だった。 「保護者同士の交流が進んでいる」と肯定的(よくあてはまる・あてはまる)に答えた保護者は、54.0%だった。	6	1		○OAでよいと思う。			

【自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。